

## 浜の活力再生プラン

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	阿久根地域水産業再生委員会
代表者名	野村 義也
再生委員会の 構成員	北さつま漁業協同組合、 まき網業者、 株式会社北さつま、 阿久根市
オブザーバー	鹿児島県

※ 再生委員会規約及び推進体制の分かる資料を添付すること。

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	阿久根地区 まき網漁業(4経営体・21隻)
-------------------	--------------------------

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

平成26年度の当該地区における中型まき網漁業の水揚げ量は12,403トン、水揚げ金額1,163百万円で、北さつま漁協取扱量の4割以上を占めている。また、当地区には、まき網船が水揚げするアジ、サバ、イワシ等の加工・流通関連業者も多いなど、当該漁業は地域の重要な産業の一つとなっている。

しかし、まき網漁業の経営は、近年、水揚げ量の減少、魚価の低迷に加え、燃油や関連資材の高騰等による経費増大が拍車をかけ、ますます厳しさを増している。

このため、中型まき網漁業者等は、持続的に水産物を安定供給し、地域の活性化に寄与するため、漁業所得の向上を図ることが課題となっている。

## (2) その他の関連する現状等

阿久根漁港施設は、昭和49年度から昭和62年度にかけて水産庁補助事業で整備しており、それぞれ整備後40年以上経過して老朽化が進み生産能力が低下している。

また、平成15年度の合併当初は1,356人いた組合員も現在では1,035人と高齢化及び後継者不足により減少している中、1,186隻いた漁船も、現在では977隻と減少している。

現在も船舶について機関の老朽化の為、経費等も掛りなかなか生活環境もよくならないのが現状である。

また、労働環境においても底が未整備であるため、風雨及び直射日光にさらされる等によって労働者の負担が多くかかるだけでなく、漁獲物が日にさらされる等、水揚げ作業時に支障が出ている状況で改善が必要である。

## 3 活性化の取組方針

## (1) 基本方針

中型まき網漁業者、漁協等は、持続的に水産物を安定供給し、地域の活性化に寄与するため、次の活動に取り組む。

## I 漁業収入向上のための取組

## ① 魚価向上の取組

- ・選別機導入による選別作業の効率化
- ・漁業者間のネットワーク構築による作業の効率化
- ・漁獲されるマダイの身割れの原因追究、改善
- ・蓄養イケスを用いた出荷調整
- ・蓄養イケスを活かした活魚出荷、販路拡大

## ② 流通強化の取組

- ・低利用魚等の漁獲物を直接消費者へ販売、普及方法の構築

## ③ 経営安定の取組

- ・漁獲共済への加入促進

## II 漁業コスト削減のための取組

## ① 燃油使用量削減の取組

- ・航行時の速度10%減速航行の実施
- ・船底清掃の複数回実施
- ・セーフティネット構築事業への加入促進

## (2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保処置

まき網業者が資源保護のために旧暦13日から17日の5日間を休漁とし、資源回復のため取り組んでいる措置「鹿児島県地先海域における1ヶ月の水揚げ日数18日以内」を遵守する

(3) 具体的な取組内容(毎年ごとに数値目標とともに記載)

1年目(平成28年) 次の取組により、漁業所得を基準年に比べ13.4%向上させる

漁業収入向上のための取組	<p>①魚価向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・まき網漁業は、イワシ、アジ、サバ等を主に漁獲しているが、自動選別機が不足しているため、人手による魚種別、サイズ別の選別作業に時間がかかり、鮮魚入札に間に合わず、単価が安い加工用や餌用で販売せざるを得ない事態が頻発している。また、入札に間に合わせるため、選別が大まかにされてサイズが不揃いであることも、魚価低下の一因である。</li></ul> <p>この状況を改善するため、漁協は、自動選別機を1基整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・まき網漁業により春時期に漁獲されるマダイ(ノボリダイ)は、三枚におろしたときに身割れするため、仲買人からの評価が低く安価で取引されている。この身割れの原因を明らかにし、身割れを防止するため、漁業者は、研究機関に相談するなど原因究明に努める。</li><li>・イワシ、アジ、サバ等が大量に入荷すると魚価が暴落する。この状況を改善するため、漁協は、大漁時にアジ、サバ類の一部を出荷調整するための蓄養イケスを整備する。</li></ul> <p>②流通強化の取組</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・漁業者は、地域での消費拡大を図るため、新たに毎月第二日曜日に定期開催されるあくね新鮮朝市で漁獲物の販売を始め、捌き方や調理法の普及、美味しさのPRに努める。</li><li>・(株)北さつまは、今後取り扱う予定のアジなどの活魚や高鮮度な漁獲物について、地魚を求める地元の飲食店に販促活動を行う。</li></ul> <p>③経営安定の取組</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・漁業者が水揚量の変動に強い経営を行うため、漁協は、漁獲共済への加入を推進する。</li></ul>
漁業コスト削減のための取組	<p>①燃油使用量削減の取組</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・漁業者は、魚群探索の際の速度を落とした減速航行や、出漁時間を早めて漁場まで減速航行する等を行い、燃油の使用量7%節減に努める。</li><li>・漁業者は、船底やプロペラ等の清掃や塗装工事をこれまでの年1~2回から3~4回に増やす等の省燃油活動を行い、燃油の使用量7%節減に努める。</li><li>・漁業者が燃油高騰に強い経営を行うため、漁協は、セーフティーネット構築事業への加入を推進する。</li></ul>
活用する支援処置等	<ul style="list-style-type: none"><li>・水産業強化対策事業</li><li>・セーフティーネット構築事業</li><li>・漁業就業者確保・育成対策事業</li></ul>

2年目(平成29年) 次の取組により、漁業所得を基準年に比べ13.4%向上させる

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①魚価向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まき網漁業は、イワシ、アジ、サバ等を主に漁獲しているが、自動選別機が不足しているため、人手による魚種別、サイズ別の選別作業に時間がかかり、鮮魚入札に間に合わず、単価が安い加工用や餌用で販売せざるを得ない事態が頻発している。また、入札に間に合わせるため、選別が大まかにされてサイズが不揃いであることも、魚価低下の一因である。</li> <li>この状況を改善するため、漁業者は、業者間でネットワークをつくり、沖合で帰港情報を交換し、帰港時間が重なる際、事前に先に帰る船の順位を決めておくほか、大漁時は選別が追い付かないことを考慮し、先に帰る船の順位・時間もルール化する。また、漁協は、整備した自動選別機を活用し、選別作業時間を短縮する。</li> <li>・まき網漁業により春時期に漁獲されるマダイ(ノボリダイ)は、三枚におろしたときに身割れするため、仲買人からの評価が低く安価で取引されている。この身割れの原因を明らかにし、身割れを防止するため、漁業者は、研究機関に相談するなど原因究明に努める。</li> <li>・漁協は、漁業者が一時蓄養したアジ、サバ等の活魚を活け締めして地元の市場に出荷する。</li> <li>・榊北さつまは、漁業者から一時蓄養したアジ、サバ等の活魚を出荷調整により魚価向上した水揚げ時の価格で買取り、これらの活魚を安定して出荷するため、活魚の販売市場を開拓する。</li> </ul> <p>②流通強化の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、あくね新鮮朝市での漁獲物の販売・PRを継続し、また、漁協が経営する食堂「ぶえんかん」利用者などをターゲットに、低利用魚・知名度の低い魚を「ぶえんかん」ロビーで、冷蔵ショーケースを用いた直販を検討する。</li> <li>・榊北さつまは、地元飲食店への販売促進を継続するほか、関東・関西等で行われるフードショー等に参加して販路拡大を図る。</li> </ul> <p>③経営安定の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者が水揚量の変動に強い経営を行うため、漁協は、継続して漁獲共済への加入を推進する。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①燃油使用量削減の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、魚群探索の際の速度を落とした減速航行や、出漁時間を早めて漁場まで減速航行する等を行い、燃油の使用量7%節減に努める。</li> <li>・漁業者は、船底やプロペラ等の清掃や塗装工事をこれまでの年1~2回から3~4回に増やす等の省燃油活動を行い、燃油の使用量7%節減に努める。</li> <li>・漁業者が燃油高騰に強い経営を行うため、漁協は、セーフティーネット構築事業への加入を推進する。</li> </ul>
<p>活用する支援処置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セーフティーネット構築事業</li> <li>・漁業就業者確保・育成対策事業</li> </ul>

3年目(平成30年) 次の取組により, 漁業所得を基準年に比べ13.4%向上させる

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①魚価向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まき網漁業は, イワシ, アジ, サバ等を主に漁獲しているが, 自動選別機が不足しているため, 人手による魚種別, サイズ別の選別作業に時間がかかり, 鮮魚入札に間に合わず, 単価が安い加工用や餌用で販売せざるを得ない事態が頻発している。また, 入札に間に合わせるため, 選別が大まかにされてサイズが不揃いであることも, 魚価低下の一因である。</li> <li>この状況を改善するため, 継続して1年目, 2年目の取組を行う。</li> <li>・まき網漁業により春時期に漁獲されるマダイ(ノボリダイ)は, 三枚におろしたときに身割れするため, 仲買人からの評価が低く安価で取引されている。このため, 漁業者は, 研究機関と連携して, 身割れを防止する対策を検討する。</li> <li>・漁協は, 蓄養したアジ, サバ等の活魚を安定して出荷するため, 市場出荷を継続する。</li> <li>・(株)北さつまは, 蓄養したアジ, サバ等の活魚を安定して出荷するため, 活魚の販売市場開拓を継続する。特に, 県内外の中央卸売市場に対しての販路拡大に取り組む。</li> </ul> <p>②流通強化の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は, あくね新鮮朝市での漁獲物の販売を継続し, 漁協が経営する食堂「ぶえんかん」利用者などをターゲットに, 低利用魚・知名度の低い魚を「ぶえんかん」ロビーで, 冷蔵ショーケースを用いた直販を検討する。</li> <li>・(株)北さつまは, 継続して, 地元飲食店への販売促進や関東・関西等で行われるフードショー等での販路拡大を図る。</li> </ul> <p>③経営安定の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者が水揚量の変動に強い経営を行うため, 漁協は, 継続して漁獲共済への加入を推進する。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①燃油使用量削減の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は, 魚群探索の際の速度を落とした減速航行や, 出漁時間を早めて漁場まで減速航行する等を行い, 燃油の使用量7%節減に努める。</li> <li>・漁業者は, 船底やプロペラ等の清掃や塗装工事をこれまでの年1~2回から3~4回に増やす等の省燃油活動を行い, 燃油の使用量7%節減に努める。</li> <li>・漁業者が燃油高騰に強い経営を行うため, 漁協は, セーフティーネット構築事業への加入を推進する。</li> </ul>
<p>活用する支援処置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セーフティーネット構築事業</li> <li>・漁業就業者確保・育成対策事業</li> </ul>

4年目(平成31年) 次の取組により、漁業所得を基準年に比べ13.4%向上させる

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①魚価向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まき網漁業は、イワシ、アジ、サバ等を主に漁獲しているが、自動選別機が不足しているため、人手による魚種別、サイズ別の選別作業に時間がかかり、鮮魚入札に間に合わず、単価が安い加工用や餌用で販売せざるを得ない事態が頻発している。また、入札に間に合わせるため、選別が大まかにされてサイズが不揃いであることも、魚価低下の一因である。</li> <li>この状況を改善するため、継続して1年目、2年目の取組を行う。</li> <li>・まき網漁業により春時期に漁獲されるマダイ(ノボリダイ)は、三枚におろしたときに身割れするため、仲買人からの評価が低く安価で取引されている。このため、漁業者は、研究機関と連携して、身割れを防止する取組を試行、検証する。</li> <li>・漁協は、蓄養したアジ、サバ等の活魚を安定して出荷するため、市場出荷を継続する。</li> <li>・(株)北さつまは、蓄養したアジ、サバ等の活魚を安定して出荷するため、活魚の販売市場開拓を継続する。特に、県内外の中央卸売市場に対しての販路拡大に取り組む。</li> <li>・漁協は、蓄養イケスの利用実績に基づき、必要に応じてイケスの増設を検討する。</li> </ul> <p>②流通強化の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、あくね新鮮朝市での漁獲物の販売を継続し、漁協が経営する食堂「ぶえんかん」利用者などをターゲットに、低利用魚・知名度の低い魚を「ぶえんかん」ロビーで、冷蔵ショーケースを用いた直販を開始する。</li> <li>・漁協は、消費者の購買意欲促進のために日帰りの観光客をターゲットにその日揚げた漁獲物を近隣の道の駅で販売を開始する。</li> <li>・(株)北さつまは、継続して、地元飲食店への販売促進や関東・関西等で行われるフードショー等での販路拡大を図る。</li> <li>・(株)北さつまは、加工業者が求めるニーズを漁業者に伝えるなど、生産者と加工業者の橋渡しを行い、新たな仲買業者への販売を試みる。</li> </ul> <p>③経営安定の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者が水揚量の変動に強い経営を行うため、漁協は、継続して漁獲共済への加入を推進する。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①燃油使用量削減の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、魚群探索の際の速度を落とした減速航行や、出漁時間を早めて漁場まで減速航行する等を行い、燃油の使用量7%節減に努める。</li> <li>・漁業者は、船底やプロペラ等の清掃や塗装工事をこれまでの年1~2回から3~4回に増やす等の省燃油活動を行い、燃油の使用量7%節減に努める。</li> <li>・漁業者が燃油高騰に強い経営を行うため、漁協は、セーフティーネット構築事業への加入を推進する。</li> </ul>
<p>活用する支援処置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セーフティーネット構築事業</li> <li>・漁業就業者確保・育成対策事業</li> </ul>

5年目(平成32年) 次の取組により、漁業所得を基準年に比べ13.4%向上させる

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①魚価向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まき網漁業は、イワシ、アジ、サバ等を主に漁獲しているが、自動選別機が不足しているため、人手による魚種別、サイズ別の選別作業に時間がかかり、鮮魚入札に間に合わず、単価が安い加工用や餌用で販売せざるを得ない事態が頻発している。また、入札に間に合わせるため、選別がだまかにされてサイズが不揃いであることも、魚価低下の一因である。</li> <li>この状況を改善するため、継続して1年目、2年目の取組を行う。</li> <li>・まき網漁業により春時期に漁獲されるマダイ(ノボリダイ)は、三枚におろしたときに身割れするため、仲買人からの評価が低く安価で取引されている。このため、漁業者は、身割れが改善されるまで、1年目から4年目までの取組をPDCAサイクルで実施する。</li> <li>・漁協は、蓄養したアジ、サバ等の活魚を安定して出荷するため、市場出荷を継続する。</li> <li>・㈱北さつまは、蓄養したアジ、サバ等の活魚を安定して出荷するため、活魚の販売市場開拓を継続する。特に、県内外の中央卸売市場に対しての販路拡大に取り組む。</li> <li>・漁協は、蓄養イケスの利用実績に基づき、必要に応じてイケスの増設を検討する。</li> </ul> <p>②流通強化の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、あくね新鮮朝市での漁獲物の販売を継続し、漁協が経営する食堂「ぶえんかん」利用者などをターゲットに、低利用魚・知名度の低い魚を「ぶえんかん」ロビーで、冷蔵ショーケースを用いた直販を継続する。</li> <li>・漁協は、消費者の購買意欲促進のために日帰りの観光客をターゲットにその日揚がった漁獲物を近隣の道の駅で販売する。</li> <li>・㈱北さつまは、地元飲食店への販売促進や関東・関西等で行われるフードショー等での販路拡大を図る。</li> <li>・㈱北さつまは、加工業者が求めるニーズを漁業者に伝えるなど、生産者と加工業者の橋渡しを行い、新たな仲買業者への販売を試みる。</li> </ul> <p>③経営安定の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者が水揚量の変動に強い経営を行うため、漁協は、継続して漁獲共済への加入を推進する。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①燃油使用量削減の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、魚群探索の際の速度を落とした減速航行や、出漁時間を早めて漁場まで減速航行する等を行い、燃油の使用量7%節減に努める。</li> <li>・漁業者は、船底やプロペラ等の清掃や塗装工事をこれまでの年1~2回から3~4回に増やす等の省燃油活動を行い、燃油の使用量7%節減に努める。</li> <li>・漁業者が燃油高騰に強い経営を行うため、漁協は、セーフティーネット構築事業への加入を推進する。</li> </ul>
<p>活用する支援処置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セーフティーネット構築事業</li> <li>・漁業就業者確保・育成対策事業</li> </ul>

(4) 関係機関との連携

行政、漁連と一体となり早期の効果発現を目指す

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の向上 %以上	基準年	平成 年度 :	千円
	目標年	平成 年度 :	千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産業強化対策事業	自動選別機導入で選別時間の短縮による鮮度保持(魚価向上)
種子島周辺漁業対策事業	労働環境環境改善のため、フォークリフト等作業に必要な機材の購入
セーフティーネット構築事業	燃油補助(コスト削減)